

木部の浅い傷・塗装剥がれの対処法のご案内

Check Point：傷の状態は 深い？ 浅い？ 擦り傷？

ひっかき傷の場合、深さがどの程度かによって対処方法が異なります。

ウレタン塗装の塗膜を削り、塗膜の下の木地まで傷がついた場合、ダイニングテーブル天板はそのまま放置すると、塗膜が切れた部分から水が浸み込み、材料に水分が浸透して材料が膨張します。徐々に乾きますが、濡れる・乾くを繰り返すことで、木材が伸縮して塗膜の剥離に発展します。

▶ 傷が深い

傷が広範囲に及ぶ場合や、長年のご使用による塗膜の擦れ・はがれが生じた場合は、工場での修理をお勧めします。無垢材のテーブルは、再研磨～再塗装を行うことで、使い始めた頃のテーブルのように復元修理が可能です（有償）。

[・修理受付はこちらのフォームから](#)

▶ 傷が浅い

傷部分の塗膜を簡易補修（タッチアップ）しましょう。

傷は少し残りますが、表面の塗膜を保護する応急処置として有効です。

[・ウレタン塗装タッチアップキットはこちらのフォームから](#)「具体的内容」に症状などをご記入いただきお問い合わせください。

▶ 擦り傷

ウレタン塗装の塗膜の表面に擦り傷がついた程度であれば、市販のペンで傷の表面に色を重ねて目立たなくする DIY で簡易補修が可能です。

[補修方法] 擦り傷に沿って、ペンで色を重ねます。はみ出た部分は布で拭いてぼかします。



・コピックスケッチ <https://copic.jp/product/sketch/>

大きな文具店や Amazon などネットでご購入いただけます。

[塗色名：コピックスケッチの品番]

WP/IW：E71（シャンパン）

WD：E77（マルーン）

NP：E31（ブリック・ベージュ）

AP：W8（ウォームグレイ No.8）

BJ：W9（ウォームグレイ No.9）

CR：E33（サンド）